

2018年度 平和学習会 主催：グリーンコープ連合会組織委員会 2019年1月28日 福岡市 124人参加

平和な社会を築くために 私たちができること

私の「グリーンコープ平和論」

金 起燮 (キム・キソプ) さん

韓国のドゥレ生協連合会を設立し、長年常務理事を務めた。2014年よりグリーンコープ共同体顧問



グリーンコープ連合会組織委員会では、生命と平和について組合員一人ひとりが視野を広げ深く考えていけるように、毎年平和学習会を開催しています。今年度は、一般社団法人グリーンコープ共同体顧問である金起燮さんを講師に迎え、グリーンコープの平和の考え方や取り組みの意義について、またグリーンコープが交流を続けている韓国のハンサリム生協やドゥレ生協での平和の取り組みについてなど、事前にお届けした組織委員会からの要望に
応える形で話していただきました。講演の要旨を紹介します。



第22回ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅。独立記念館の前で。後ろに見えるのはキョレの塔。大地を蹴って空に飛び立つ鳥の羽と、祈りを捧げる両手を象徴化したもの

互いを知り、違いを乗り越え連帯する
韓国での平和や戦争についての受け止め方は、日本と少し違います。韓国では8月15日を「光復節」と呼びます。光が再び戻った喜びの日という意味です。日本による占領から解放された日であり、南北の統一を願う日でもあります。世界で唯一、北緯38度線で国が分断され、休戦中の状態が続いているのが朝鮮半島です。親子兄弟同士で殺し合い、独裁政権で自由と人権を奪われ、格差を広げてきたのが韓国の現代史です。

韓国は多くの人々にとって、戦争とは「分断」であり、平和とは「統一」です。なぜ私がこの話をするのかというと、相手と本心に付き合うためには相手を知ることが大切だと考えるからです。同じ言葉を使っても、その言葉が相手にとってどういう意味を持つのか分からなければ、本当の意味での連帯は生まれません。

日本人の一人」から二人の日本人」へ
グリーンコープの「ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅」(これまで22回開催)は、日本の侵略の歴史を知る旅です。独立記念館や慰安婦だったおばあさんたちが住んでいるナムムの家などを訪問し、ハンサリム生協やドゥレ生協の人々と交流します。日本人は、広島や長崎の原爆の被害者であると同時に、加害者であることを忘れてはならないと思います。矛盾する両面を素直に正視してほしいと思います。その上で平和について考えることで、「日本人の一人」だった人が、自立した「一人の日本人」に変わります。これは大きな



2018年度 グリーンコープ共生・平和長崎自転車隊。小さな子どもたちを気づかいながら、長崎市内を走る

違いです。韓国の生協のみなさんとの交流を通じて、同じ母親、同じ親心を持つ人が韓国にもいることが分ければ、国境を越えた人間同士の連帯が生まれます。1997年、北朝鮮が大飢饉が襲い、数十万人の子どもたちが命を失いました。この当時、南北の関係は非常に悪化しており、韓国の人々は支援したくても何もできない状態でした。グリーンコープのお母さんたちはカンパを募り、北朝鮮の子どもたちを助けたいと思いましたが、韓国のお母さんたちを飛び越えて物資を送ることに疑問を感じ、カンパ金をハンサリム生協のお母さんたちへ託しました。一番さわしい形で北朝鮮の人々を応援してもらおうと考えたのです。これが「連帯」なのです。「協同」は仲間同士の助け合いですが、「連帯」は人間同士の支え合いです。

平和を自分の心に問う
グリーンコープのもう一つの大切な平和の取り組みは「共生・平和長崎自転車隊」です。8月8日(9日、柳川から長崎の爆心地へ向かって子どもたちが「不戦」のゼッケンを背負って12.5kmを自転車で行きます。大人たちは子どもたちを支え、応援します。なぜ自転車隊で長崎へ向かうのでしょうか。それは戦争を起こした真の原因、私たちの生き方や暮らしを問い直すためだと思います。「平和と生命を賭してでも守らなければならないものなどあるのだろうか」と自分の心に向かってみてほしいです。子どもたちは身体を使い、平和を体感します。大人たちは子どもを支えることで、親と子の関係の在り方、平和と共生の伝え方を問い直します。現在のグリーンコープができたのは、自転車隊の存在が非常に大きいと思います。

自己中心性と格闘することが「不戦」
グリーンコープは思いを大切にする生協です。人間にとって素朴で素直な気持ち、「暴力はイヤ」「戦争はイヤ」という情念を大切にします。「平和と生命そのものに価値がある」と考えるからです。だから、平和と生命を全うさせない何らかの理由と日々闘います。しかも平和と生命を守る行為を肯定しません。自己表現しながらも自己中心性と根気よく格闘するのです。これが「不戦」です。グリーンコープの「平和」は、平和の状態や平和の維持ではなく、

平和を創り出していく運動です。向かうのは外ではなく、内(自分)です。被害者であると同時に加害者であるのです。そんな矛盾を矛盾として素直に正視します。

2018年度 from **ネグロス・クリスマスカンパ** ご協力ありがとうございました

最終確定額 **5,127,867円**
集められたカンパは、*APLAをとおしてアジアの人々の自立に役立てられると共に、グリーンコープがネグロスを支援していく活動に活かされます
*アジアでの「農を軸にした地域の自立」をめざす人々が協働する場をつくりだすことを目的に設立されたNPO法人

自己中心性と格闘することが「不戦」
グリーンコープは思いを大切にする生協です。人間にとって素朴で素直な気持ち、「暴力はイヤ」「戦争はイヤ」という情念を大切にします。「平和と生命そのものに価値がある」と考えるからです。だから、平和と生命を全うさせない何らかの理由と日々闘います。しかも平和と生命を守る行為を肯定しません。自己表現しながらも自己中心性と根気よく格闘するのです。これが「不戦」です。グリーンコープの「平和」は、平和の状態や平和の維持ではなく、

「不戦」はどこから始まるのか。それは、「ことば」から始まります。「ことば」の中には、「情念」、「理念」、「論理」の三つが同時に含まれます。例えば、何か物を作るときに、まず自分の頭や心の中で「こんなものが欲しい」と考えます。最初の素朴な思い、それが「情念」です。欲しいものを作るための設計図が「理念」であり、取扱説明書にあたるのが「論理」です。論理としての資本主義や社会主義を守るために、「戦争」という理念を「正当防衛」としてきたのがこれまでの歴史です。その「競争と強者の論理」に対抗した戦後のほとんどの運動は、協同・助け合いの論理、つまり同じく「理念としての平和」を訴えてきました。それに対してグリーンコープ

人間連帯が平和な社会を創る
平和は、政治によって創られるものではありません。「平和と生命自体に価値がある」と考える者同士が、主体性を持って生き、連帯することで、平和が創られるのです。平和と生命を大切にすることは、人を信じ、「完全な情報公開」、「徹底的な話し合い」、「機敏で責任ある対応」をすることで築くことができます。今の社会の状況に拘束されずに、もつとたくさん夢を語って、共に地域の中で具体的に実現していきましよう。

「戦争はイヤだ」という情念による素朴な平和主義から出発します。理屈は分からなくてもそれはイヤだ、やりたくないということが一番大事なのです。グリーンコープの平和論は、五感から感じられる素朴な思い(情念)と、その思いをカタチにしていこうという思い(理念)の二つの「おもい」の共生によって思想となり、「夢ヲかたちに」していく道のりです。